

第 38 回東北建築賞作品賞選考報告

選考委員長 小地沢 将之

1. 応募作品

- ・小規模建築物部門 9 点
 - ・一般建築物部門 26 点
 - ・その他の建設部門 1 点
- 計 36 点

2. 選考経過

(1) 事前打ち合わせ会議 2017 年 9 月 15 日 (金) 13:30 ~ 15:00

於 日本建築学会東北支部会議室

選考委員長の選出、東北建築賞作品賞募集要項、選考委員会規則などを確認した上で、応募作品の数とその内訳を確認した。東北建築作品発表会の運営方法及び東北建築賞作品賞の選考基準などについて事前打ち合わせを行った。

(2) 東北建築作品発表会 2017 年 10 月 7 日 (土) 9:30 ~ 17:30

於 せんだいメディアテーク 7 階スタジオシアター

第 28 回東北建築作品発表会において応募 36 作品の発表が行われた (内 1 作品辞退) 限られた発表時間の中でそれぞれのコンセプトが紹介され、発表会は全体として滞りなく進められ終了した。時間厳守にご協力いただいた発表者、諸氏に敬意を表したい。

(3) 第 1 次審査会 2017 年 10 月 7 日 (土) 17:30 ~ 18:45

於 せんだいメディアテーク 2 階会議室

東北建築作品発表会終了後、会場を移し、現地審査を行う必要のある作品を選定することを目的として、第 1 次審査を行った。小規模建築物部門、一般建築物部門を別々に選考せず、全作品の中から半数程度に絞ることを目標に一人 10 票を投票することとなった。各委員が各々 10 票を投票した結果、得票数順に 9 票 ~ 2 票までの 15 作品を第 1 次審査通過とした。なお、1 番の作品について、間接的な関与がある委員については論評を差し控えることとし、また同委員は同作品には投票しないことを事前に申し合わせた。以上の結果、小規模建築物部門 5 作品、一般建築物部門 10 作品の合計 15 作品を第 1 次審査通過とした。

次に、現地審査は 1 作品につき 2 名以上の選考委員がこれに当たることを確認し、選定された 15 作品について現地審査の分担を決め、現地において確認すべき点を検討し、作品管理者との連絡を含めた現地審査の日程調整は事務局を通して行う事とした。

なお、1 次審査の落選者へは 200 字程度の講評を選考委員分担で作成し、選考委員会として送付することを確認した。

(4) 現地審査

現地審査については11月と12月に選考委員で分担して現地審査が行われた。

(5) 第2次審査 2018年2月10日(土) 13:00~17:30

於：日本建築学会東北支部会議室

まず、小地沢委員長より全体の進め方の確認があった。その後、1作品ずつ現地審査担当委員からパワーポイントにより報告を受けた後、現地を確認した担当委員の印象等を確認した。作品についての質疑、審査委員の評価ポイント等についての討議を全審査員で行った。

投票の結果、小規模建築部門1作品、一般建築部門3作品を作品賞にすることが決まった。また一般建築部門1作品を特別賞にすることが決まった。

(6) 選考結果

作品賞 4作品

余白の杜

【所在地】岩手県北上市
【施主】芳野 竜太郎
【設計監理】acaあ 岸本 和彦
【施工】伸和ハウス株式会社

八戸市立西白山台小学校

【所在地】青森県八戸市西白山台 4-15-1
【施主】八戸市長 小林 眞
【設計監理】建築：(株)日本設計、シーラカンズ K&H(株)
構造：(株)佐藤淳構造設計事務所
設備：(株)日本設計
【施工】建築：寺下・高橋・東邦特定建設工事共同企業体
強電：創電・佐々木特定建設工事共同企業体
弱電：(株)山下電業
空調：北奥・壬生・テクノ特定建設工事共同企業体
給排水：テクノ・北奥特定建設工事共同企業体

宮古市崎山貝塚縄文の森公園複合施設

【所在地】岩手県宮古市崎山第1地割16番地1
【施主】宮古市長 山本 正徳
【設計監理】意匠：アトリエノルド
構造：星野建築構造設計事務所
電気設備：振興設備設計
機械設備：セイナン設計事務所
展示：tecoLLC
【施工】建築：佐々勇建設(株)

電気設備：岩館電気（株）宮古営業所
機械設備：（株）太平エンジニアリング宮古営業所
展示：（株）ムラヤマ

二本松市城山市民プール

【所在地】 福島県二本松市郭内4丁目170番地
【施主】 二本松市長 三保 恵一
【設計監理】 (株)関・空間設計
総括／渡邊 宏
建築担当／江田 紳輔 八島 健介
構造担当／齊藤 善宏 高野 正（高野構造設計室）
電気担当／小阪 雄二 小野寺 彰（E.I.S 設備計画）
機械担当／小澤 洋一 佐藤 弘樹（E.I.S 設備計画）
外構担当／金子 幸也（カネコランドスケープ）
【施工】 建築：菅野・ヤマニ特定建設工事共同企業体
電気：ユアテック・下山電工特定建設工事共同企業体
機械：一工・オオナミ特定建設工事共同企業体
外構：(株)菅野土建
植栽：(有)渡松

特別賞1作品

くりでんミュージアム

【所在地】 宮城県栗原市若柳字川北塚ノ根17番地1
【施主】 栗原市長 千葉 健司
【設計監理】 意匠：(株)氏家建築設計事務所
総合監修：青山学院大学 高島 修一
文化財監修：山形大学 永井 康雄
構造：(株)日本システム設計
電気設備：(有)中央設備設計
機械設備：まがき設計
【施工】 建築：(株)小野良建設
建築（文化財）：小野寺建設(株)
電気設備：(株)栄進電気
機械設備：(株)加藤工機
展示：(株)丹青社

(7) 講評

作品賞

【余白の杜】

古くからの町割りを残した地方都市の市街地の一角における住宅です。住商が混在した周辺からの喧騒を断ち切るため、道路や隣地に対しては住戸の壁を回していますが、西側では縦格子越しに中庭の木々の色が映え、住宅内部の豊かさを予感させてくれます。特に評価されたのは、エントランス、玄関の間、中の間、奥の間へと、空間が雁行しながら奥行きを持っている点です。各居室間ではほどよく視線が通りながらも、それぞれの領域としては独立できており、まさに設計者の狙い通りの空間構成ができていました。各居室の使われ方に応じたスケール感の設定が適切であったことにも好感が持てました。2畳の間や畳の間は、軒の出などにおける設計上の努力もあった空間です。ひとたび座ると、時間が経つのを忘れさせてくれるような空間でしたが、目下の中庭との関係や、正対せずに構えている向かい側の居室との関係性で成立していました。

このように本作品は、まとまりのある構成を細緻な設計によって実現している住宅であり、受賞にふさわしいと判断しました。

【八戸市立西白山台小学校】

この学校は、校舎へのアプローチが印象的で、木々が植樹されている北西角のエントランスゲートを通り、体育館棟、多目的ホール棟、職員室棟の曲線で構成された外壁の建築群の間を自然にすり抜けるように校庭へと進み、教室棟の3つの昇降口へと辿り着きます。校舎は、大きな敷地の中に体育館棟、多目的ホール棟、特別教室棟や学年別教室棟など分棟型スタイルとり、その間に芝生張りの中庭があります。その構成は明快で機能的、さらに通風・採光はもちろん視認性や美観も良好です。更に子供達の積極的な活動を誘発する仕掛けが見え隠れします。また、屋根集熱システム、ペアガラスの建具、すべての棟が廊下により接続されなど、寒冷地の学校としての配慮もなされています。構造は、体育館を除き、地元産の木を使った木構造で、その架構のデザイン・ディテールは美しく、また、家具、什器なども構造材と同じ樹種で造られていることなど、全体として、色彩の統一感、木質感、施工性の高さ等、質の高い木質の学校空間を創出しています。

以上のことから、この学校は東北建築賞に相応しい作品として結論付けられます。

【宮古市崎山貝塚縄文の森公園複合施設】

本作品は、縄文文化を現代に生き生きと伝える建築であり、地域施設としても機能する複合建築です。彫りが深く無駄のない抑制のきいた外観は、周辺環境に落ち着きと風格を与え、地域の誇りを醸成するデザインだといえます。東日本大震災の影響から多大な調整や変更に見舞われたにもかかわらず、最善の策を提示しつつ施設全体をまとめあげた設計者の力量には相当の高い次元を感じさせます。館内の展示についても専門家との高度なコラボレーションが実現され、来館者の学びをより深化させる工夫を随所に凝らしていま

す。縄文の時間を巡り学ぶ動線が、めりはりの利いた空間で導かれる計画となっており、展示物や展示内容と建築空間とが分かちがたく融合し互いに功を奏しています。本作品の管理者からは設計者に対する高い信頼と、培われ共有された建築をつくることの喜びが深く感じられ、施設全体に心地よい調和をもたらしていることを知ることができます。

以上から、本作品は東北建築作品賞としてふさわしい建築だと評価いたします。

【二本松市城山市民プール】

二本松城址に隣接する浅い谷地に沿うように建設された当施設は、鉄骨造の外殻に木造小屋組屋根の大空間である屋内水泳施設です。

高低差のある敷地の最上部に駐車場が配され、そのレベル正面にあたる2階部エントランスから館内に入ると、ギャラリースペースのガラス越しにプール空間の樹形の鉄骨柱が印象的に目に留まります。1階に配されたプールへは、ギャラリーから螺旋階段を降りてアプローチしますが、視点の移動がプール空間のダイナミズムをより一層に強調します。木造小屋組の屋根に穿かれたスリット状のトップライトも印象的です。

寒冷地の屋内プールでは結露問題が一般的に発生しがちですが、本施設においては、プール空間の空気流動計画と積極的な空調によりそれを防いでいます。

以上のように本施設は、敷地を活かした空間構成とともに、木架構の可能性を拓き、水泳施設そして地域固有の建築屋内環境上の課題を解決した完成度の高い建築であると評価され、東北建築賞作品賞に相応しいと審査されました。

特別賞

【くりでんミュージアム】

旧若柳駅舎とともに、『栗原地域と歩む鉄道文化拠点』をコンセプトとする「くりはら田園鉄道公園」に立地する「くりでんミュージアム」は、同鉄道廃線（2007）後の資産保全活用に向けた栗原市の検討やそれを支える市民活動を経て、2017年にオープンしました。町村合併（2005）後の栗原市都市計画マスタープラン（2008）や、岩手・宮城内陸地震（2008）・東日本大震災（2011）後の文化財ドクター派遣事業を踏まえた公園基本計画（2013）では、若柳中心地域の観光拠点、かつ市有形文化財指定の復興モニュメントと位置づけられています。

百年近い鉄道経営の関連資料の保存、機関車・工作機械類の動態保存、建設時図面の調査を踏まえた建物修繕・再生など、一連の「被災から保存再生・活用」を目指したまちづくりの成果といえます。新築資料館の設計や展示方法、都市計画道路による公園敷地の分断など、更なる検討改善の余地はあるものの、限られた市予算の中での出来る限りの試みです。そこで本審査会は、「くりでんミュージアム」を東北建築賞特別賞に相応しい作品と考えました。

第 38 回東北建築賞作品賞選考委員会

選考委員長	・小地沢将之	仙台高等専門学校総合工学科
委員	・最知 正芳	東北工業大学工学部建築学科
	・有川 智	東北工業大学工学部建築学科
	・高橋 典之	東北大学大学院工学研究科
	・増田 聡	東北大学大学院工学研究科
	・竹内 泰	東北工業大学工学部建築学科
	・渡邊 浩文	東北工業大学工学部建築学科
	・鈴木 弘二	(株)鈴木弘人設計事務所
	・加藤 彰	(株)カト一建築設計事務所
	・山岸 吉弘	日本大学工学部建築学科
	・野村 俊一	東北大学大学院工学研究科

以上